IV 地域ゆかりの画家と現代美術

三浦半島の中程に位置する横須賀市は、温暖な気候で多くの画家に愛されました。大阪出身の画家朝井閑右衛門は、戦前は各地を放浪しながら絵画制作をおこない戦後に横須賀にアトリエを構え力強い油彩画を描いたことで知られています。とくにドン・キホーテと電柱をモチーフとした作品を数多く制作しました。詩人草野心平は朝井を評して「彼は絵具を耕した」と述べています。現代美術の作品としては元永定正や山口長男など前衛美術作家の作品を展示します。

朝井閑右衛門　《瓢箪鯰》　制作年不明

朝井閑右衛門
《ドン・キホーテ》　制作年不明

朝井閑右衛門
《豊干入国清寺》　1942年

展示解説

11月7日（土）、12月13日（日）の午前11時より学芸員による解説を展示室にて行います。聴講無料（ただし美術館入館料が必要です）。参加希望の方は新館ラウンジにお集まりください。

スライドレクチャー

［開催日］11月14日（土）　［開場］午後1時30分　［開始］午後2時

ミュージアムコンサート

［開 催 日］10月25日（日）、31日（土）、11月1日（日）、3日（火・祝）、7日（土）、8日（日）、22日（日）、23日（月・祝）
［開　場］午後1時30分　［開演］午後2時（全日共通）

Ei愛チャリティーコンサート ～心をゆする音の景色～

「命を謳う Part. X ～思いをつなぐ、世界をむすぶ～」
［開催日］11月15日（日）　［開場］午後1時30分　［開演］午後2時

講演会、スライドレクチャー、ミュージアムコンサート、チャリティーコンサートはいずれも音楽ホールでおこない、美術館に入館された方はご自由にお聴きいただけます。当日美術館入口より午後1時30分に配付する整理券が必要です。なお、先着120名で入場制限を行います。全席自由。内容については美術館までお問い合せください。

プレゼント企画　※協力：横須賀市文化スポーツ観光部・横須賀美術館

抽選で豪華景品をプレゼントします。
1等（1名）：オリジナルデザインスカジャン
2等（3名）：スカリンぬいぐるみ＋横須賀美術館ミュージアムグッズ
3等（10名）：スカリンクリアキーホルダー＋横須賀美術館ミュージアムグッズ
なお会期中にはスカジャンの注文販売もおこないます。

スカジャン10days、KUBOSOプロジェクションマッピング、プレゼント企画については9月末日に詳細を美術館ホームページで告知いたします。

関西文化の日　2026年11月14日（土）、15日（日）は入館無料

美術館の入館料、図録・グッズの支払いに、現金決済に加えてクレジットカードや電子マネーなどキャッシュレス決済手続きが可能です。

［主な決済ブランド］
カード決済　VISA　JCB　AMERICAN EXPRESS
電子マネー　iD　Edy　WAON　nanaco
交通系電子マネー　Suica　PASMO　ICOCA
スマホコード　PayPay　au PAY　Pay　R Pay　d払い

講演会「海とスカジャンの街・横須賀の美術コレクション」

横須賀美術館学芸課長冨田康子氏をお迎えし、横須賀美術館コレクションの魅力を語っていただきます。
［開催日］11月21日（土）　［時間］午後2時より
［費用］無料（ただし美術館入館料が必要です）

スカジャン10days（テンデイズ）

11月13日（金）から11月23日（月・祝）の期間で横須賀の代名詞のひとつといえるスカジャンの試着体験をおこないます。撮影も可能です。

KUBOSOプロジェクションマッピング ＆ ナイトミュージアム

12月12日（土）から25日（金）の期間は音楽ホールにてプロジェクションマッピングを行います。ナイトミュージアム期間中に限り、館蔵品をランタンでご覧いただく特別な展示室をご用意します。この期間にかぎり閉館時間を午後8時まで延長いたします。

和泉市久保惣記念美術館
KUBOSO MEMORIAL MUSEUM OF ARTS, IZUMI
〒594-1156　大阪府和泉市内田町3-6-12　TEL:0725-54-0001　https://www.ikm-art.jp

ホームページ　公式X　公式Instagram

Access

■ 電車の場合
南海泉北線「和泉中央」駅下車、南海バス①乗り場より「美術館前」行、乗車（約10分）、バス停「美術館前」下車すぐ

■ 車の場合
阪和自動車道「岸和田・和泉」インターより約3分（無料駐車場有）

特別展
Yokosuka Story　Selections from the Yokosuka Museum of Art Collection

横須賀ストーリー －横須賀美術館コレクション 展－

2026
10／25［日］
12／25［金］

開館時間：午前10時から午後5時
［KUBOSOプロジェクションマッピング開催期間（12月12日から25日）は午後8時］
KUBOSOプロジェクションマッピングとナイトミュージアムは同時開催となります。
休館日：月曜日（ただし11月23日は開館し翌火曜日休館）

谷内六郎《船が編むレース》　横須賀美術館・谷内六郎館蔵　©Michiko Taniuchi

主催：和泉市、和泉市教育委員会、一般財団法人和泉市文化振興財団、和泉市久保惣記念美術館
協力：横須賀美術館

入館料：一般1000円　高大生600円　中学生以下無料
※20名様以上、65歳以上は2割引　※各種障がい者手帳等を提示された場合、ご本人及び介助者1名様は無料
※会期中の毎週水曜日は小学生未満のお子様と来館の家族は無料

12月12日～25日
ナイトミュージアム ＆ プロジェクションマッピング
開催！

和泉市久保惣記念美術館
KUBOSO MEMORIAL MUSEUM OF ARTS, IZUMI
〒594-1156　大阪府和泉市内田町3-6-12　TEL:0725-54-0001　https://www.ikm-art.jp

ホームページ　公式X　公式Instagram
くぼそう　検索

Izumi 70th
和泉市制施行70周年
Anniversary

特別展

Yokosuka Story　Selections from the Yokosuka Museum of Art Collection

横須賀ストーリー －横須賀美術館コレクション展－

本展覧会は、互いに自衛隊駐屯地があることをきっかけに、令和6年度に美術館同士の防災協定を締結した横須賀美術館のコレクションおよそ70点を、(Ⅰ)日本近代洋画の俊英たち、(Ⅱ)海の絵画、(Ⅲ)谷内六郎、(Ⅳ)地域ゆかりの画家と現代美術の、4つのセクションでご紹介いたします。

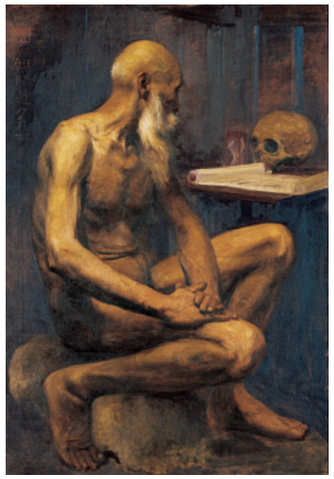
Ⅰ 日本近代洋画の俊英たち

明治維新を迎えた日本では伝統的な日本絵画から脱却し、西洋絵画の技法を積極的に受容する動きが生まれます。海外へ留学して西洋画法を現地の画家に学ぶ日本人画家もいました。慶應2年（1866）東京で生まれた中村不折（1866～1943）は高橋是清の館に住み込みながら小山正太郎に師事しましたが、1901年にフランスへ渡りラファエル・コランに教えを受けました。オーギュスト・ロダンに面会して署名入りのデッサンも渡されています。明治21年（1888）京都で生まれた梅原龍三郎（1888～1986）はパリの私立美術学校であるアカデミー・ジュリアンで教えを受けました。明治31年（1898）大阪で生まれた佐伯祐三（1898～1928）は、フランスに赴き20世紀前半世界の芸術家たちが集ったというパリのモンパルナスで技術を高めました。そのほかこのセクションでは小磯良平（1903～1988）や藤島武二（1867～1943）などの作品をご紹介します。

佐伯祐三　《窓のある建物：パリ風景》　1925年

藤島武二
《夢想》　1904年

小磯良平
《ビルマの婦人》
1942年頃



中村不折
《道》　1912年

赤松麟作
《水辺裸婦》
制作年不詳

画像提供：横須賀美術館

横須賀美術館とは

横須賀美術館は横須賀市の市制施行100周年を記念して2007年に開館した美術館です。三浦半島の東京湾側に位置します。美術館の建物は、プリツカー賞を受賞し、世界的に活躍する山本理顕氏によるもので、眼下に広がる東京湾の青と白を基調とした外観のコントラストが目をひく美術館です。1999年に策定された美術品の収集方針にのっとり、(1)横須賀・三浦半島にゆかりのある作家の作品、(2)横須賀・三浦半島を題材とした作品、(3)日本の近現代美術を概観できる作品、(4)「海」を描いた作品の4項目を基準として収集活動を行い、現在は6,000点の作品が収蔵されています。

Ⅱ 海の絵画

美術館の屋上から望む東京湾の景色はまさに絶景、その海の広がりには息をのみます。本セクションでは、穏やかな海辺の風景や港のにぎわい、船を描いた作品など、多彩な海の絵画をご紹介します。明治7年（1874）岡山県で生まれた鹿子木孟郎（1874～1941）は日本近代洋画に本格的な写実表現をもたらした画家として評価されています。中村光哉（1922～2002）は水戸藩士の家に生まれ、東京美術学校で日本画を学びました。その後友禅染やろうけつ染の染色品を制作し、東京藝術大学の教授を務めたことでも知られています。横須賀美術館が位置する三浦半島へ1984年に移り住み、手描き友禅の作品を制作しました。

海老原喜之助（1904～1970）は鹿児島に生まれ、上京して有島生馬に教えを受けた後、単身で渡仏し藤田嗣治に師事しました。白色と青色の強弱により青色を引き立てる表現は「エビハラ・ブルー」と呼ばれ賞賛されました。

鹿子木孟郎
《潮の岬焼景》　1924年頃

中村光哉
《爽秋》　1999年

海老原喜之助
《海と船》　1927年

Ⅲ 谷内六郎

横須賀美術館には谷内六郎（1921～1981）の作品を展示する施設として谷内六郎館が併設されています。谷内は1956年に創刊した週刊新潮の表紙絵を長年描き、表紙絵の総数は1335枚に達しました。1975年に美術館周辺の観音崎公園近くにアトリエを構え制作を続けました。1998年には遺族から横須賀市へ週刊新潮の表紙絵や関連資料が寄贈されました。本セクションではひとつの展示室で谷内六郎作品をまとめてご覧いただきます。

谷内六郎　《海のサイダー》　1957年

谷内六郎　《夜明の音階》　1964年

谷内六郎
《タネ吹く子》　1960年

谷内六郎
《リンゴのサンタさん》　1979年

谷内六郎の作品全て
横須賀美術館・谷内六郎館蔵　©Michiko Taniuchi